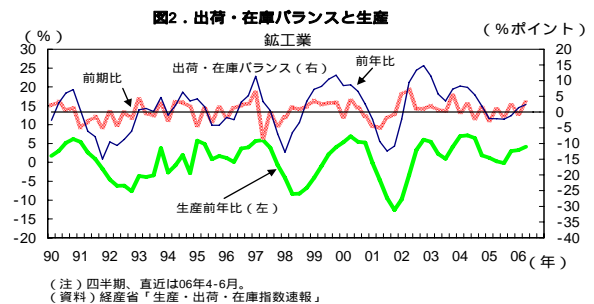
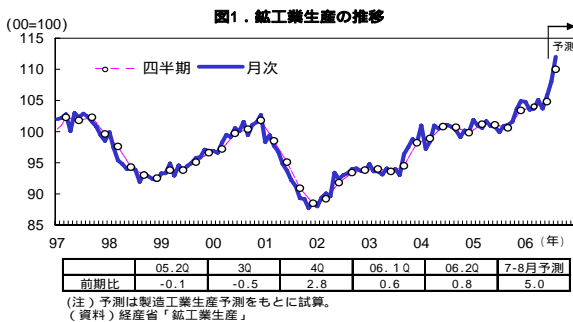


産業景気動向

06年6月の鉱工業生産は、予測指数からは下振れしたものの、2ヵ月振りの増産となった。7、8月の生産予測指数でも増産が見込まれている。輸出、設備投資が増勢を保つなか、在庫調整は一巡し、在庫積み増し局面に向けた動きもみえており、鉱工業生産は引き続き拡大基調が予想される。

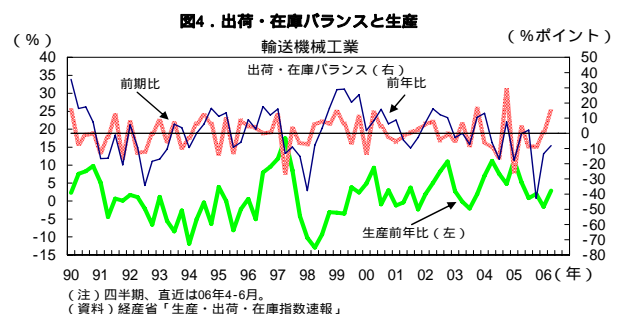
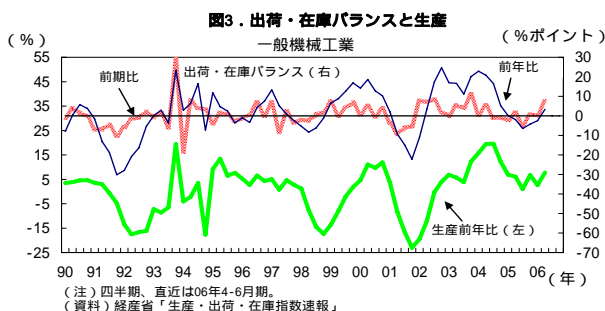
6月の鉱工業生産は前月比1.9%増。7、8月の予測指数は同2.2%増、3.7%増

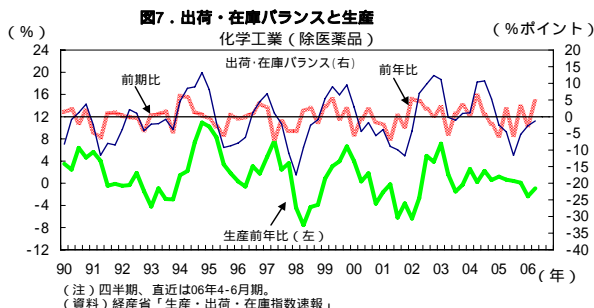
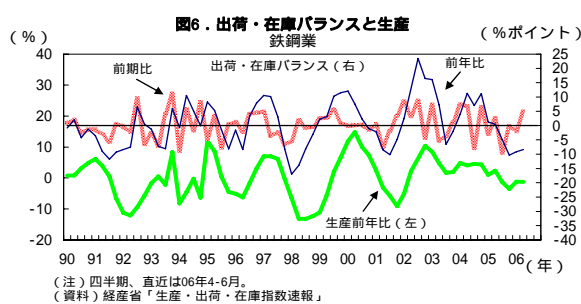
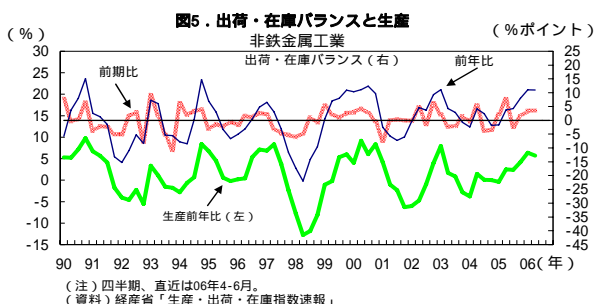
6月の鉱工業生産は前月比1.9%増となり、生産予測指数の伸び(同2.7%増)を下回ったものの、2ヵ月振りの増産となった。業種別には、金属製品工業(同2.1%減)、電子部品・デバイス工業(同1.3%減)などが減産となったが、輸送機械工業(同5.9%増)、精密機械工業(同4.0%増)などが増加している。四半期でみると、4-6月期は前期比0.8%増となり、3四半期連続の増産となった。4-6月期は、電子部品・デバイス工業(同1.7%減)、化学工業(除医薬品、同1.5%減)などが減少したが、一般機械工業(同6.2%増)、輸送機械工業(同3.5%増)などが増産となっている。先行きについては、7、8月の生産予測指数が堅調であり(それぞれ前月比で2.2%増、3.7%増)、前月比で先のぼしすると、7-8月は、4-6月期比で5.0%増加する見通しとなる(図1)。鉱工業全体の「出荷・在庫バランス」を見ると、前期比ベースのバランスがプラスに転じ、前年比ベースのバランスは、プラス幅が拡大している(図2)。全体で見ると、在庫調整は一巡し、積み増し局面へ向けた動きもみえており、輸出、設備投資の増加が続くなか、鉱工業生産は、引き続き拡大基調で推移するとみられる。



一般機械工業、輸送機械工業の出荷・在庫バランス(前期比)のプラス幅が拡大

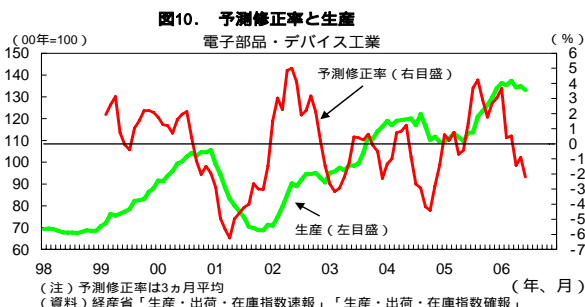
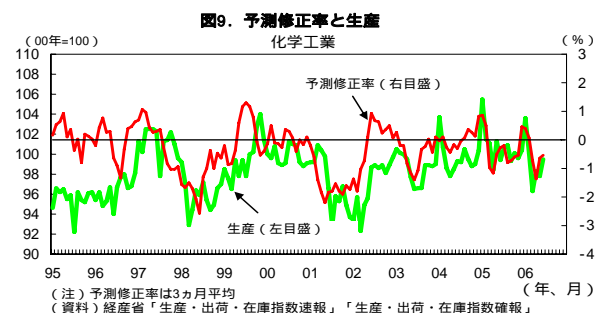
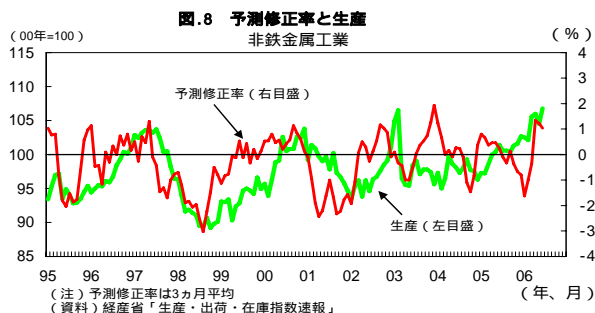
業種別に、「出荷・在庫バランス」をみると、一般機械工業では、前期比ベースのバランスのプラス幅が拡大、前年比ベースのバランスはプラスに転じている(図3)。このほか、加工業種では、輸送機械工業の前期比でみたバランスのプラス幅が拡大、前年比でもバランスのマイナス幅が縮小している(図4)。一方、素材業種では、非鉄金属工業で、前期比ベースのバランスのプラス幅が拡大、前年比ベースのバランスも大幅なプラスが続いている(図5)。鉄鋼業、化学工業(除医薬品)では、前期比でみたバランスがプラスに転じ、前年比でみたバランスのマイナス幅も縮小している(図6、7)。素材・加工業種を問わず、幅広い業種で在庫調整が一巡となったことが示されているといえよう。





生産予測修正率(3カ月平均)は、化学工業でマイナス幅が縮小

生産活動に先行して動く傾向がある予測修正率(3カ月平均)をみると、非鉄金属工業は、足元横ばいの動きとなっているものの、これまでの上昇を考えると、目先、生産拡大が続く可能性がある(図8)。また、化学工業ではマイナス幅が縮小しており、生産活動の持ち直しの動きがみられる(図9)。一方、電子部品・デバイス工業はマイナス幅の拡大が続いている(図10)。



(2006.8.9 研究員 石田 琢磨 Tel : 03-3572-9114 E Mail : takuma@murc.jp)

本資料の記載内容の一部を引用あるいは転載される場合には、必ず「三菱UFJリサーチ&コンサルティング投資調査部 資料より」と明記して下さい。
本資料に掲載された分析・予測等は基本的にエコノミスト個人の見解に基づいています。また、資料作成時点の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。
本資料は情報提供を唯一の目的としており、何らかの行動ないし判断をするものではありません。また、掲載されている予測は、本資料の分析結果のみをもとに行われたものであり、予測の妥当性や確実性が保証されるものでもありません。予測は常に不確実性を伴います。本レポートの予測・分析の妥当性等は、独自にご判断ください。

三菱UFJリサーチ&コンサルティング 投資調査部

〒105-8631 東京都港区新橋1丁目11番7号

URL : <http://www.murc.jp/>

TEL : 03-3289-1685 (部代表) FAX : 03-3289-1682